

014148-000-4

特16-535

神官要義

福羽 美静 / 著

M34

ABB-0425



福羽美静先生著

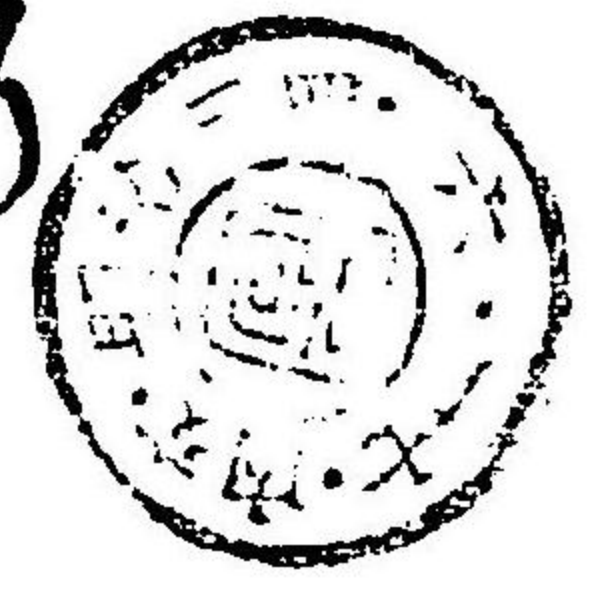
神官要義

精美版上梓



この要義を
一冊に

美都



先生の著書と
なる

もの

おもしろい
本だから
読む

師翁福羽先生の神官要義を著はされし
はいまし三十年のとなりき當時活字も
て謄寫の勞に代へ僅に相知れる間に配
られたるばかりなりしかばいまはその
すりものも残りなくなりぬさざるに
なほこれを求むるもの少なからず中
に我物顔に名を署して物の本などに出
だすもあり道の爲には喜ばしき限りな
れど轉々の間に魯魚焉馬の誤のみかは
章句の意を爲さざるをさへ傳ふるに至
らんとを恐るよりて先生に請ひて更に
これを版行し惠を同志者に分たんとす

明治卅四年六月 野村傳四郎

神 官 要 義

福羽美靜著

神祇の爲に職を奉し又衆人を教導する輩は幽冥に對し顯露に
對し恥なき人たることを要すさて其幽顯に恥なき人といふは
精神逞しくして行事悉く正確最も教導教育の任に適當し學事
の研究必要なりその研究の順序事に關係するの大意左の如く
あるべし

専ら國史を講究し古代と中世と近世と現今との差別其沿革を
明かにし夫より將來に對する考慮を運らしすべて人の標準と
なる覺悟を以て研究し神祇に奉仕しては神事の本體に叶ふべ
く又通常人事を務むるに於ても徳義を實行し人道の宜しきを
得て世人の好例者となり神事即ち人事なるとを覺悟すべし
古道研究の次第は古代の史典及祝詞歌辭又遺文遺風遺物等に

師翁福羽先生の神官要義を著はされし
はいま三十年のまじりき當時活字も
て謄寫の勞に代へ僅に相知れる間に配
られたるばかりなりしかばいまはその
すりものも残りなくなりぬとさるるに
なほこれを求むるもの少なからず中
に我物類に名を署して物の本などに出
だすもあり道の爲には喜ばしき限りな
れど轉々の間に魯魚焉馬の誤のみかは
章句の意を爲さるるをさへ傳ふるに至
らんことを恐るよりて先生に請ひて更
これを版行し惠を同志者に分たんとす

明治卅四年六月 野村傳四郎

神 官 要 義

福羽美靜著

神祇の爲に職を奉し又衆人を教導する輩は幽冥に對し顯露に
對し恥なき人たることを要すさて其幽顯に恥なき人といふは
精神逞しくして行事悉く正確最も教導教育の任に適當し學事
の研究必要なりその研究の順序事に關係するの大意左の如く
あるべし

専ら國史を講究し古代と中世と近世と現今との差別其沿革を
明かにし夫より將來に對する考慮を運らしすべて人の標準と
なる覺悟を以て研究し神祇に奉仕しては神事の本體に叶ふべ
く又通常人事を務むるに於ても徳義を實行し人道の宜しきを
得て世人の好例者となり神事即ち人事なることを覺悟すべし
古道研究の次第は古代の史典及祝詞歌辭又遺文遺風遺物等に

も心をよせ百事の沿革を明らかにし祭式事務時勢適當を知るを要すへし是等の事は讀書のみにては事不足あり其時の識者及卓論家によりて考究するの道多多なるべし
 すべて世人の好例者とあふんには神道人道これを一身に纏めて知り行ひ學事技能の大體を辨へ度量廣大愛育心勇斷心併せてこれを養ひ大忠小忠大孝小孝の差別を明らかにし平常又艱難時ともに其處すべき場合を鑒別し徳義の最高處を企望し神祇道の古來廣大なりし由來又海の内外古今の卓識家の研究潜心しつるあとを顧み各國の事跡取捨の緩急を考究すべき事
 古代の遺事には神意の廣大を表することあり八十綱打掛て引寄する云云などこれを擴めて考ふるときは世にある所のものは神明の心庫中の者にしてわが帝國漸々これを明らかにし時

勢の循環に隨ひて衣食住の變革言語文字美術又身行徳義次第次第に變換進度を要するものにて現今の如く復古維新は最も神明の慶意なる事を了知して疑ふことなきを要す
 創業の時代は其勢力明なる事にて方今の維新もまた其勢を明らかにすべし中古奈良時代唐土の事物を引寄せて人事の度を進めたること多し又奈良時代と山城平安城の時代とを考ふれば又大に進みたるものありこれ皆神武創業又其近時代一代一帝都の勢をあしたる其遺風等悉く其根元より出來りたるものなり神明に奉仕する事業必高くひろく彼の祝詞なる横山の如積あすとか豊かに云々なといふこと尤其時勢をみるべきものなり

時勢の變革を以て度を進むるの道理を明らかにし又方今神事

中にも中世以後弊風の生したることを辨知して弊事は速かにこれを退け衆に對する教意においても其迷信固陋狹量ある行事は必改めしむべし徳義も武家時代文弱時代の徳義甚可嫌事ありこれ等の注意あるべし神明に對し祈念心あるは當然ながら俗間に稱する如き利益報効を専念し夫に乘して神官等の卑劣を極むるなどは最も注意戒心すべきことあり

國史を考究すれば皆解することながらわが日本國は萬國において其試考したる品を共用採用する事にて古來漢土の物品事業を追々採用して其時勢の度を高くしたるものなり中古文弱の國となり書籍の空案よりして或ひと狹隘論者も出來また時代遠に過去の舊習などを用ゐて大に迂遠をとる事あり夫よりして中古亂世を生し帝室の尊嚴を損したりしは其時代時代の

人のわろきよて最初採用したる本意は決して國躰に違ふとにあらす方今とても矢張其意なりまづ衣食住のことも上古はかの裁縫も不十分なる衣服にて追々にこの道精しくありたりしかれとも近世の如く骨格に合せたるを用ゐるは全く時代の進歩をあらはしたるとあり食事もまたしかり滋養專一となり且宴會遊樂の席といへとも悉く進歩を顯し又居室の製作も實に時代時代お進歩するものなり此邊の理合神明は頼より其理を備へしものなれば其神祇に奉職する輩これか先導者とあり宮殿の作り方及物品の献供等或神社の古格の規模を表する爲依然と古代を不失分の外はすべて有爲の人々も感を生ずる迄美麗にし其方法等行届くやうに無之ては神明の神明たる所も顯はれざるものなり如此論し來るも現今の如く多數の神社神社

を其の儘擴張せんかといへば左にあらす中古以來いはれもなき尊信より生して實に正しき神に對して耻る所の神社あり神道者の俗流はこれをも増さんとする勢ひありこれ等は必嚴格に心得てかの廢止となりし兩部の儀の如く此外耻かしき部分は漸次に取除け敬禮もみだりにして眞の敬禮を失ふときは尊神嚴儀も却て不敬をなすの道理ありと知り其邊の用意ありたきとなりすへての事讀書萬卷にして必其謬あきに至り諸事の分別をなすへし假初に自得流より分別心をなしてこれは是なりこれは非ありとかもふも忽に變動をきたすものにてよろしからすまた讀書中おはれのづから備はる所の勇斷心必あるものおればこれをよろしきお用ゐるを要す又世のことは漸漸會議上よりなりたつ事多しこの中おも多數を採るものとまた多

神 官 要 義

數およらざるものとの差別ありこれまた甚見るお苦しむものなりこの分別能く注意して衆人よ對しこのことの心得を示さすしてはかの大事ある選舉及黨派の團躰等誤て不學者の多數がしらすく國家を誤り人事の錯誤を生とることあり現今は武家政治卑屈政治中の舊弊をうけたる人多しかのれが知覺十分なりとかもふ人も中々お狹量の自慢心より諸事を誤るなり大量大度は善政の下おある人久しくしてこれを得る事なるへし此心得も又肝要なり

人は善事と不善事との差別を知ること肝要とす教育上専ら此事お注意すへしもし試お徳義上よりして一々お其善事はいかやうなるものなると人おいはし現今の衆人は必温良お傾きありて人を敵となすおとなどを嫌ひ謙讓心を第一に善と稱する

神 官 要 義

あるべし實は善といへば人にも益を與へたのれもよろしく不
良の人の爲には譬へにくまるとも大智あり大度量ある人に稱
譽せらるれば其事を榮譽として身を進退し撓ます正確志ある
を善と稱すへきなり此事は一事二事の試法おては適法を得さ
ることながらこの事等を思はさらば實に神明に對して耻るこ
とある人ありとしるべし

神明を敬するうへおれいては報本反始の大事附着すまの報本
反始といふと人は人誤るまど多し其誤りを生ずるは偏見より
生ずまの大事を偏に誤解すれば眞の報本反始おあらず何事お
ても其の本とある時は必末の繁榮を希ふもれありさて其末繁
榮し繁榮するお隨ひ其本はまれあり其始はかくありしあり今
日の榮もまた其末の榮えんまどを希望するものなりおれおよ

りていつもく其始をおもひ本を尊ひ其心全く其末をしげら
せんとする意を含みて必其本をわすれざるまど宜しとすしか
なさいれば其本をおもふといへとも其正しきを得ざるものな
り譬へていとは我家の祖先父母をおもんする事とても其先人
をさへ敬してろの子孫のうへをすて、まれが教育もなさすま
たおのれが思想も狭少にして其永遠をはからすまた他を敬愛
するまどまでもをしへすかもはすして一途に信念を迷はせを
る時は祖先おれを歡ふへき道理なし父母長上もまれを満足な
りおはれもはさる事必然なり學者中古に僻して將來をおもふ
にうとさあり是歴史の見解に誤を生ずるにより偏見を生しれ
のつうら人に疎んせられ終に人を導くまどもなりかね學者學
意を失するか多し學者もし此誤あらさるときは衆人何ろ識者

神 官 要 義

をうとんせんや衆人は心中空虚なり空虚は物を容るゝ道理なり現今衆人にして識者に問ふことを厭ふ人あるの識者に偏見あるとまた衆人にして衆人たる位地を失し一の小偏者多きか故なり學者も衆人もともに慎しむべきまとなり國史をよむは必先達の有功者をねもふへしあかれとも維新前と後との差別大なるを知り維新前の識者か其功あるをねもひて必過度の稱揚を以てし又其説のみを知りて其先達の本意を損するか如きまとなきを要す世の中暗黒時代には燈火の光きはやかなり開明維新は其識者の待し時代の到来したるものなり其識者もし今日あらは百倍の新案をも必出すとならんそれを其時代の見識にとめて白晝燈火を掲げ出すの光景ありてはまれも又報本反始の誤解者といふべし必慎むべし

神 官 要 義

讀書家はすなはちろれとまれとの媒介者なるが如し神官教職は國史を誦讀し最高處を考へ出て、氏子産子諸人に益を與ふへし中古内裏の構造其時代にして大量大度かの賢聖の障子よりあら海手長島等の繪畫ありとりも直さす至尊は上古の神意を採り衆を勧め業を大にしたまひし姿なり現今は世界の往來あり其未熟の國土へ對しては國家舉りて神意を奉し人事を盡すべきの時節到来したるか如し其職にある輩最も多事なりとしりて講究すべし

氏子産子其外の輩中には特殊なる氣風ありて切に帝室に心をよせて何をがな直接に帝室に對し奉獻又勞をとりたく考ふる等の其道を得さるの人等ある時は能く平常の心得を示し其情を奉呈するの順序を盡さしめ國民の進度を高からしむること

これまた國家歩をそゝむるの道理なればこれ等の考慮をまて
神官教職は覺悟あるべきことなり

人は移居住來必ずしけきものなり又慶事愁事必あるものなり
神官教職は其事に關係し衆を扶け道を踏ましむるをよろしと
す此中にねのつからなる好風俗をねこし創業風の新誘導法を
含蓄し現今のすなひち奈良と山城京都との變革よりは大なる
變換をなし後世の歴史にして實に神州の大觀を残すか如きこ
とあらしむへしこれすなひち天地の初發以來人事に附着せし
めし天然自然の大道なり中古この大理を度外となして狹量な
る小善事小徳行をのみすゝめ終に人をして卑屈謙退を禮の如
くしらしめしものなから古道に心を潜むるときは人人本志を
明かにすべし一身かるければ衆人かるし衆かるければ其國か

神 官 要 義

ろし其國かるければ其祖其神何ろこれを賞譽することあらん
これ等の事人々人の本體をあやまらざらんことを要すこれに
より神官教職此心をもちて衆に接し其人人自ら重からしめ其
れもき人人皆神を敬し帝室を重んじ通常其交際はいふに及ば
す未開地の人人か歩を陞す如き周旋をもなし其心をもつて内
外人の移轉婚嫁等悉くこれか价者となりてかの數種類天神地
祇の同心開國したる本體に報すべきことなり
物は中庸をさるといふ習慣ありこの事よろしきに似て或る場
合にはあやまることありこれによりまつ一點の中主たるもの
を備へるれを中心として其中主に應する中庸をさるされは無
偏無黨の中庸も無勢力となり徒爾となり勞して功なきものこ
なることあり衆に對するの教導最も此一大事をたもふへし是

學問中の肝要なる研究事件なりとしるへし

神事は清潔を尊ひ正堂堂を宜しとす併中古其狹量心よりして其儀式を無味に陥らざめ清潔も價值なき式となりこれを神明の喜ひたまふものとなえたる弊風あり國史をよみ古傳を明かにして神事は其時代時代の壯觀式なることをさとりて供物器具も其適當を考へ衆人を開き導き將來の世態人心を造るへきことなりこれ神官教職研究の要務なりとしるへし

神官教職は飽迄志操堅固にして大量大度天地の成立より歴代の沿革及内外の交通其人事の重き所即ち婚姻法異種の合性より悉く利徳を生する道理かの竹に木を接くといふ不理なる儀は採用爲さずして諺にいふ梅か香をさくらの花に匂はせて柳の枝よさかせてし云云といふ志望をは考慮中にたくへきもの

なり武家政治中狹量なる惡思想惡主義を排除し眞徳義眞忠孝眞敬神眞尊王眞善行眞慈心を勵むへしこれを勵むは即ち世界お通し神明の愛育心と心を同じくし知識を天地の組合おひとしくして物の變換を活用せしめ漢語にいふ換骨奪胎などの心もとり隆正翁がよみし歌

世の中はときてむすひてまたときて

またむすひつゝとくとしらなん

の意味をも心頭わするゝことなく衆人の信をたく所の人となり諸種の道教お至りても其高尚なる所のみを論してわか本來のひろきお容るゝを要し神明の徳光を大おするの理を心懸くへき事前條述るか如き人となる時は帝室お對して大敬禮者となり人の好例者となるへきなりうれよりして衆人をさとし敬

神 官 要 義

禮の改正より文筆書札會晤宴飲の作法も其己か身を自然又上
 度となして其敬禮法の至極を知り衆人眞お高尚の敬禮を行ふ
 お至るの道をさるへしもし此の儘おして人人足れりとして居
 ることならば帝室お對しても十分なる備へを奉るお至らすし
 て終又人劣り國弱しといふ耻をとり玉ふをも顧みさる人とい
 ふお至るへし慎しむへきことなり
 氏子産子は其地の由來を明かす素より企望することなれ
 は其善良心を擴張して名所舊跡を探り古事の考證また孝義善
 行美事の探聞表彰等これも神官教職の注意事件として心得へ
 きことなるへし
 神官教職は人お師たるの位地なることを辨知し衆人の學校教
 育をたすけまた家庭の良策をも案し人人をして價値ある人と

神 官 要 義

ならしめ國をして國祖の意を擴めしむるを宜しとす
 官府も學校も日曜日と既お定めたることなれば人々散
 歩日の如し此日を以て氏神産土神の參詣日となし祖先の合祭
 等をも行ふこととなし從來のひがんねはん縁日参り等を轉換
 することならば諸職工實業家も無益の日時を費やさす隨て錢
 囊の徒費を防ぐの一法ともなるへし序ながらこゝお述ん將來
 衣食住の度を昇そは理の當然なりしかれとも其過度おわたる
 の奢侈の人の避くへきことなるへし是等好風儀を興起せしむ
 るも神官教職の力によることなるへし
 衆人の學校の教育によりて其成れるを求むることなから學校
 教育は各ろの學年によることにてまつ技能力熟すれお退校す
 しかして其家事實際にあたる時期は學校の關係なきものとな

れり是等も其氏子信者好機會に接する毎に注意して其人民の
成立を謀る事は又神官教職の務としるべし
國家は廣大なり帝室を戴くこと實にひろし然れども官員門閥
はしたしく皇恩に接し衆民は自然帝室に遠きものなり神官教
職學意ある輩は自然この大道を察知し政事法令に嫌あらざる
限りは學事及製作品其他技能力をは直接に帝室の觀儀に供せ
しめ其皇徳をして衆心の仰く所となすこともまた神人調和神
官教職の一事務とたもひて可なるへし
以上はすなはち神官教職國家に對するの抱負を廣大にし其研
究をのぞむ故にこの神官要義一篇を草す

全 明治三十四年六月十三日 印刷
年六月十八日 發行

定價 金八錢

著 者 東京府下豊多摩郡淀橋町大字角筈新町五十五番地
福 羽 美 靜

發行者 東京市牛込區市ヶ谷八幡町三番地
菟 道 春 千 代

發行所 東京市牛込區市ヶ谷八幡町三番地
精 美 館

發賣所 横濱市相生町六丁目百番地
精 美 館

印刷所 横濱市太田町四丁目六十二番地
大 川 印 刷 所



不 許
複 製

1988-1989